

可児市陶芸苑 個別施設計画

令和2年12月

(令和7年10月改訂)

可児市経済交流部 歴史資産課

目次

1	目的と位置づけ	1
(1)	目的	1
(2)	位置づけ	1
2	計画期間	1
3	対象施設	1
4	施設の現状と課題	1
(1)	現状	1
(2)	課題	3
5	今後の方向性	4
6	施設の劣化状況	4
7	施設の日常点検	5
8	対策の優先順位の考え方	5
9	対策内容と実施時期	5

1 目的と位置づけ

(1) 目的

本計画は、可児市公共施設等マネジメント基本方針（以下「基本方針」という。）および可児市公共施設等マネジメント基本計画（以下「基本計画」という。）に基づき、個別施設ごとの具体的な対応方針を定める計画として、点検・診断により得られた個別施設の状態や、維持管理・更新等に係る対策の優先順位の考え方、対策の内容や実施時期を定め、長期的な視点から財政負担の軽減・平準化を図りながら老朽化対策等に取り組むために定めます。

(2) 位置づけ

本計画は国のインフラ長寿命化基本計画（平成 25 年 11 月「インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議」で決定）に基づく個別施設計画として位置づけます。

また、可児市公共施設等総合管理計画（基本方針及び基本計画）の下位計画に位置づけます。

2 計画期間

本計画の期間は、令和 3 年度（2021 年度）から令和 12 年度（2030 年度）までの 10 年間とします。計画の達成状況を踏まえて、本計画は 5 年を目安に見直しを行うものとします。

なお、計画期間内であっても、社会情勢による状況の変化、事業の進捗状況等に応じ計画の見直しを行うこととします。

3 対象施設

本計画の対象施設は、以下の施設とします。

番号	施設名	所在地	敷地面積	延床面積
1	可児市陶芸苑	久々利 1644-1	725.15 m ²	256.46 m ²

4 施設の現状と課題

(1) 現状

ア 施設概要（ソフト面）

施設の設置目的	市民に広く陶芸の普及を図り、もって文化の振興及び社会教育に寄与する。
施設の構成	実習室、茶室、焼成室、收藏庫
施設で行われる事務サービスの内容	開館時間：午前 9 時～午後 4 時 30 分 休館日：休館日：月曜日、休日の翌日、年末年始（12 月 26 日～翌年 1 月 5 日） （祝日の翌日が土曜日、日曜日又は休日にあたるときは開館する）

料金体系	実習室 1 人 2 時間につき 220 円（別途材料費・焼成費相当額を徴収） 茶室 1 時間につき 440 円
------	--

イ 施設概要（ハード面）

施設名称	建築年度	構造	階層数	屋根	外壁	耐震状況
可児市陶芸苑	S61	S	2	瓦葺	ALC	新耐震基準

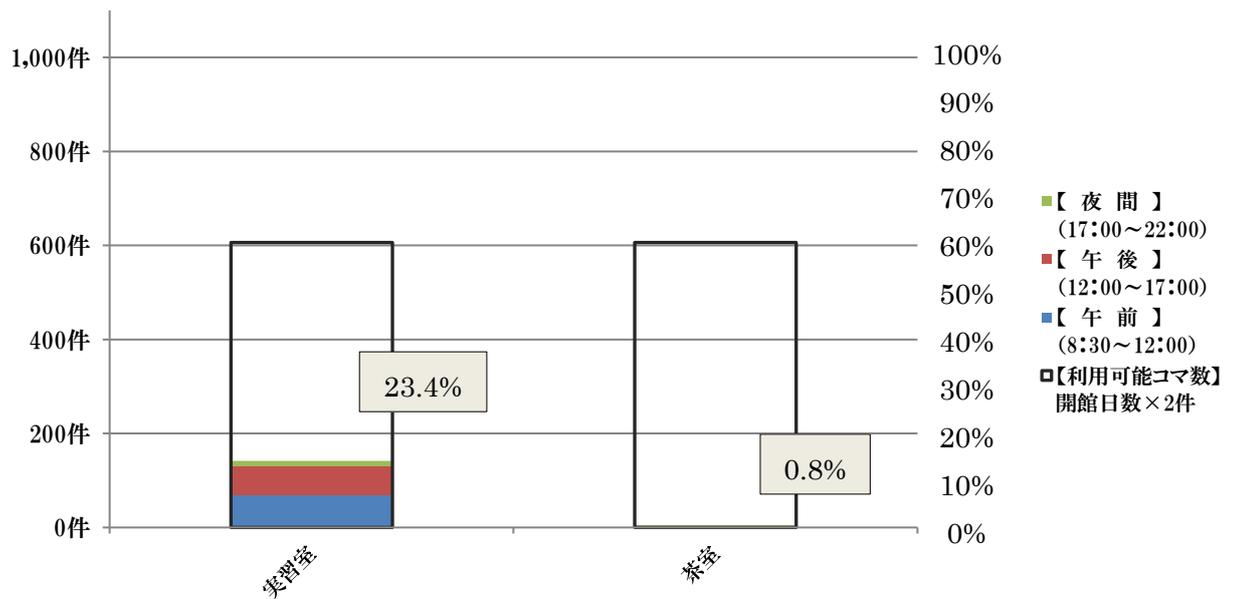
※構造 S=鉄骨造

※外壁 ALC=軽量気泡コンクリート

ウ 施設の利用状況

(7) 稼働率

各部屋の稼働率 R6



実習室の稼働率は 23.4% と低い状況です。焼成窯（※3）の処理能力の制約があるため、利用率にはある程度の制限がありますが、コロナ禍を経て、利用者層の主体であった高齢者の利用が減少しています。

※3 焼成窯・・・可児市陶芸苑に導入されている電気釜は、一度に多量の焼成が可能。但し、少量の焼成に向いておらず、冷却にも時間を要するため、小型の窯のように頻繁に稼働することができない。

(4) 利用者数の推移

年度	利用者数	
H20	1,772 人	
H21	1,942 人	
H22	1,981 人	
H23	1,836 人	
H24	1,825 人	
H25	1,660 人	
H26	1,690 人	
H27	1,832 人	
H28	1,826 人	
H29	2,211 人	
H30	2,054 人	
R1	1,656 人	
R2	724 人	コロナ対策のため利用自粛（休館）あり
R3	890 人	〃
R4	1,284 人	コロナ対策のため利用自粛
R5	1,310 人	〃
R6	1,190 人	

平成 27 年度から令和 1 年度（5 年間）では、年間で約 2,200 人が利用しています。

令和 2 年度以降は、コロナウイルス感染症対策による利用自粛の影響により利用者数は減少し、令和 2 年度から令和 6 年度（5 年間）は年平均は、約 1,100 人となり、その影響を強く反映しています。

エ その他

(7) 施設の防災面の視点

利用時間中に大雨、地震などの災害が発生した時は、利用者の避難誘導などの必要な措置を講じます。（利用時間以外は無人となる）

(4) その他

2 階の収蔵室には美濃桃山陶の陶片資料が、多数、保管されていますので、防犯体制を含め、適正な施設管理を行っていく必要があります。

(2) 課題

○施設目的と利用者数の減少

施設利用目的は、市民団体への作陶指導及び各種講座が大半を占めており、この他に小学校のからの要請に応じることもあります。

コロナ禍を経て減少した利用者数は、増加傾向にありますが、まだ以前の数値には回復していません。サークル活動においては、会員の高齢化にともない会員数が減少しています。

○やきもの文化の普及

やきもの文化を市民に広く普及していくため、新規の人でも利用しやすい環境を整えていく必要があります。

5 今後の方向性

○サービス内容の充実について

隣接の可児郷土歴史館が「美濃桃山陶の聖地」のエントランス施設としての役割などが検討されています。したがって、可児市陶芸苑もその役割を補完する施設として、より魅力的な講座を開催するなど、サービスの充実を図る必要があります。

6 施設の劣化状況

建物内部、屋根、外壁について部位ごとの目視による確認を基本とし、部分的に触手及び打診調査を実施しました。

○建物の劣化状況の評価の定義

劣化度	評価基準
A	概ね良好。特に修繕上問題となる事項なし。
B	部分的な劣化が見られる。経過観察または修繕対応。
C	広範囲に劣化が見られる。5年以内に改修が必要。
D	劣化の程度が大きく、早急な対応が必要。
—	点検対象外。

○施設別項目別劣化状況

名称	劣化状況					
	屋根	外壁	内部	電気	給排水	空調
可児市陶芸苑	A	B	B	B	B	B

7 施設の日常点検

施設利用者の安全確保、施設の予防保全による長寿命化のため、施設の日常点検（自主点検、法令点

検、定期点検)を行います。点検において確認された不具合等については、履歴として記録し、以後に、修繕、改修を行う際や個別施設計画を見直す際に、考慮します。

8 対策の優先順位の考え方

利用者の安全性確保に係る改修を最優先とし、個別施設の劣化状況、各施設の利用状況、今後の方向性等を勘案し、総合的に判断します。

9 対策内容と実施時期

対象施設における今後の対策時期、内容、費用を算出しました。

費用は本計画策定時点における概算であり、工事発注時における詳細な設計や今後の災害発生等の状況、社会情勢の変化により、変動が生じる場合があります。

対策時期についても、本市の財政状況等により、変動が生じる場合があります。

(単位：千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
対策内容						空調 照明器 具類				
費用	0	0	0	0	0	440 1,183	0	0	0	1,623
年度計	0	0	0	0	0	440 1,183	0	0	0	1,623